

# つくば市中心部における視覚障害者の歩行環境分析 Analysis for Pedestrian Environment of Sight-restricted People in Central of Tsukuba City

大石 貴之 (地球科学専攻)

OISHI Takayuki (Division of Geosciences)

(1) 研究目的：本研究ではつくば市中心部における点字ブロックの敷設状況から、視覚障害者の歩行環境を考察することを目的とする。

(2) 調査・分析方法：対象地域はつくばセンターを中心とする9つの街区とペDESTリアンにおいて、点字ブロックが敷設されている道路とした。点字ブロック上を、簡易型GPS受信機を持った調査者が実際に歩き、違法駐輪など障害物のある場所や駐車場の入り口など点字ブロックが途切れている場所、案内板が設置されている場所についてウェイポイントデータを取得し、それぞれの属性を記録した。分析の方法は、それぞれの属性を点数化して各道路に得点をつけ、対象となる道路を得点の高低により区分した。

(3) 使用したデータ：ベースマップについては、「2万5千分の1地形図」において対象地域を含

むものを使用し、取り込んだデータは、「ArcGIS ver.9.1」において分析を行った。

(4) 結果・考察：各道路における点字ブロックの得点分布は図1に示した。中心部やペDESTリアンにおいて得点の高い道路が多くみられた。これは障害物となる放置自転車数がそれほど多くないこと、案内板を設置している箇所が多いことが要因として考えられる。一方、住宅の多い周辺部においては得点の低い道路が多くみられた。これは草木が歩道に張り出して展示ブロックをふさぐ箇所が多くみられることや車の出入り口が多く、点字ブロックの途切れる箇所が多いことが理由として挙げられる。また、密度測定の結果を図2に示したが、この図からは、中央通りとペDESTリアンが交差する領域で密度が最も高いこと、施設に着目すると、つくば駅の入口における密度が最も高いことがわかった。

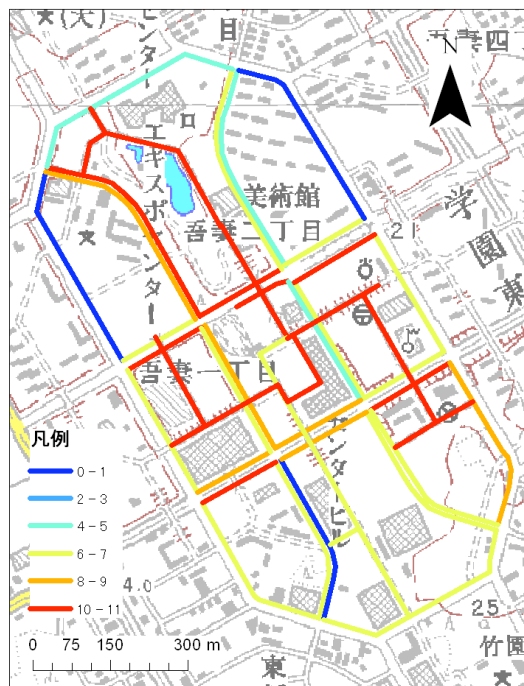


図1 点字ブロックの得点分布

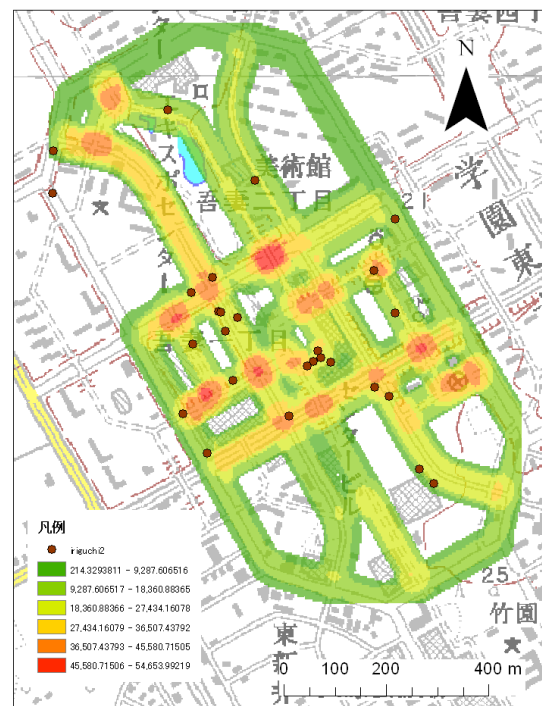


図2 点字ブロックの分布密度